

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>	フランス語II B F2156 Intermediate French B				担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 西本 希呼			
群	外国語科目群			分野(分類)				使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	火4		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

<フランス文化>

本講義では、フランス語初級文法を終えた受講生を対象とし、主に音声(調音音声学的観点からフランス語に出て来る音の発音の仕方)の再確認、文法事項のより詳細な理解、購読を通じた聞き取りと語彙力の向上、フランス語を含む「言語とは何か?」という問いを見つめ直すことを目的とする。

授業では講師の専門領域・研究分野を随時取り上げ、フランス語およびフランス語圏の社会と文化を理解するために次の3点を題材として取り上げる。

- (1) 「言語とは何か?」という問いを答えるために「フランス語」という一つの言語を詳細に見つめて考察する。
- (2) 言語多様性と生物多様性の関連性について
- (3) フランス語圏を含む国際社会が抱える現代問題について

(1)(2)(3)は平易なフランス語資料を授業で随時配布し、毎回の授業時間の約2割を費やす。これらに関する事前の予備知識は特に必要としない。

[到達目標]

本講義を通じて、実用面を重視する語学としてのフランス語のみならず、フランス語を通じて世界を見る広い視野と柔軟な姿勢を培うことを目標とする。フランス語の音声、文法、語彙の復習とさらなる発展を目指すと同時に、社会の様々な面で、多角的視点から物事を考察し議論できることを目標とする。

[授業計画と内容]

毎回受講生からの質問・コメントからはじめ、教科書にそった文法・講読を行う。コラムとして、授業の2割は「言語について」「フランス語(圏)について」取り扱う。

- 1) オリエンテーション、受講生自己紹介(興味関心について)、文字と発音、フィールド言語学入門、名詞の性と数、形容詞の性と数
- 2) 冠詞、提示表現、人称代名詞、世界の言語の中でのフランス語
- 3) 直説法現在、否定文、疑問文、所有形容詞
「所有」に関する考察
- 4) 直説法現在、直説法半過去・複合過去、言語多様性とは?
- 5) 近接未来・近接過去 言語多様性と生物多様性
- 6) 名詞・形容詞の複数形、性の一致、数量表現
「人間の数の認識と言語」
- 7) これまでの復習、比較級、最上級
- 8) 関係代名詞、フランス語圏の文化(タヒチの薬用植物)

----- フランス語II B F2156(2)へ続く -----

フランス語II B F2156(2)

- 9) 代名動詞、中性代名詞、言語復興運動
- 10) 非人称構文、単純未来、単純過去、フランス語圏の文化（マダガスカルの薬用植物）
- 11) これまでの復習、使役動詞、未知の言語を調査する
- 12) 条件法、未知の土地へ赴く、媒介言語と現地語
- 13) 接続法、フランス語圏の文化（西アフリカの食事）
- 14) これまでの復習、受動態、「言語とは何か」
- 15) 試験
- 16) フィードバック

【履修要件】

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

【成績評価の方法・観点】

- (1) 平常点（出席、毎回コメントシートの提出）40%
- (2) 理解度チェック小テスト20%（小テストは2週間に1回程度、欠席による追試は実施しない）
- (3) 期末レポート40%（レポート内容は授業中に指示）

【教科書】

久保田剛史 / 関未玲 / バティスト・プロ 『読んで学ぶフランス語-初級文法総仕上げ』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-35289-3

【授業外学修（予習・復習）等】

- * 授業で指示した箇所を事前に読んで単語を調べておくこと。（多くは指示しないので短い文章を確実に）
- * 予習よりは復習を重視する。
- * 配布資料はファイルに挟む等して、授業時に持参すること。
- * 授業の終わりに、コメントシートの提出を求めるが、これは平常点であり、コメントの内容は成績に左右しない。
- * 小テスト（成績に加点）は、2週間に1度行う。教科書に沿った文法項目の理解度テストである
- * 期末試験・レポートは授業中に指示する。

【その他（オフィスアワー等）】

【主要授業科目（学部・学科名）】